教職をめざす学生を応援するフリーマガジン

2017 spring
vol. 7

EDU PONT

エデュポン

明治大学農学部
生命科学科2014年卒業
山本美月さん
俳優・モデル

特集

誌上座談会

それぞれの世代が感じる教育環境への思い

CAMPUS SNAP

愛媛編

愛媛大学、松山大学

あなたが教職を志した動機は?

教育リレーコラム vol.7

幼年期が長かったから、生き延びた

「教育リレーコラム」7回目は、作家で法政大学教授の島田雅彦さん。人類の発達特性と進化の過程から、時代を経ても変わらない「教育の本質」を説きます。

島田雅彦 さん
（しまだ・まさひこ）

作家。1961年生まれ。東京外国語大学在学中の83年、『優しいサヨクのための嬉遊曲』でデビュー。84年『夢遊王国のための音楽』で野間文芸新人賞、92年『彼岸先生』で泉鏡花文学賞、2006年『退廃姉妹』で伊藤整文学賞を受賞。17年5月に『カタストロフ・マニア』（新潮社）を刊行。

地球上で最も繁栄した現生人類は極めて未熟な状態で生まれてくるという特徴がある。馬は生まれた瞬間から自分の脚で立って歩けるが、ヒトが自力で歩けるようになるまで一年くらいかかる。チンパンジーのように親にしがみつく腕力もなく、歯もないので固形物は食べられず、目もよく見えず、放っておいたら、すぐに死んでしまう。ほかの動物に比べて成長が遅く、親と過ごす幼年期が長いので、一人前になるのに十年以上の歳月がかかる。だが、教育や学習に膨大な時間と手間をかけることで、高度な技術を生み出し、複雑なコミュニケーションを行えるようになり、より多様な環境、状況に臨機応変に対応できるようになったことが、生き残りのカギになったのである。また養育を通じ、家族、血縁地縁の結びつきが深まり、互助の知恵が磨かれ、協議しながら問題解決に当たるようになった。ホモ・サピエンスとある時期までは共生し、交雑もあったネアンデルタール人はすでに滅んでしまったが、彼らは現生人類よりも早くおとなになったらしく、それが環境変化への適応という点で裏目に出たからだという。

ホモ・サピエンスは地球上のあらゆる環境に適応し、温暖化や寒冷化、乾燥化、火山の破局的噴火などの気候変動にも対応し、淘汰をくぐり抜けてきた。天体の運行と気象の因果関係に気づき、物質の特性や自然の法則を発見し、自然に加工を施す技術を洗練させ、自然界に存在しない人工物を次々と生み出すようになった。

抽象的な思考ができるようになった人類は神を作り、死者の世界であるあの世を作り、絵画を描き、法や掟を作り、貨幣を生み出した。また農耕と牧畜の発達により、砂漠や高山、小さな島々に進出するようになったことも人口増加を促した。食料生産力を飛躍的に高めたことで、食料確保に費やす時間が短縮され、活動の範囲が広がり、その知性を存分に発揮することができるようになった。

私たちの遠い先祖の知恵は代々、受け継がれ、踏襲されてきたが、その知恵が差別や独占、征服や虐殺というかたちで発揮されることもあった。共存共生をめざした方が結局はより多くの生存に有利になることは歴史が証明しているが、ひとたび権力を手中にすると、それを維持することに躍起になるその習性が改まることはなかった。

法は権力の横暴から人々を守るためのものであるにもかかわらず、権力者は自分に都合がいいように法を歪曲する。権力者に不当に抑圧されずに済むように、公共の福祉に反しない限りで自由を謳歌できるように、もっといえば、奴隷状態から解放されるためにこそ、教育が必要なのである。

権力者のイエスマンを育てることは教育とはいわない。洗脳と呼ぶのである。思考の多様性をいかに身につけるか、それこそが教育の本質である。教育する側に回っても、そのための努力は死ぬまで続く。

イラスト：岡田 丈

EDUPONT 2017 spring vol.7

Contents

03 教育リレーコラム
島田雅彦さん
幼年期が長かったから、生き延びた

04 特集 誌上座談会
それぞれの世代が感じる教育環境への思い

08 今さらきけない教育問題
「学習指導要領」とは？
明星大学教授
樋口修資さん

12 キャンパススナップ
愛媛編 愛媛大・松山大
あなたが教職を志した動機は？

13 活躍する先輩たち
野老優子さん
子どもたちの新たな姿や行動に毎日出会える喜び

14 表紙の人インタビュー
山本美月さん
「俳優」「モデル」として社会に貢献していたい

「EDUPONT（エデュポン）」は、「Education（＝教育）」と「Pont（＝仏語で「橋」の意）」からの造語で、教育と社会、学生と教育現場をつなぐ「架け橋」となることをめざして命名されました。

撮影協力：松山大学

誌上座談会

それぞれの世代が感じる教育環境への思い

ICT機器の導入、保護者と学校との関係、子どもたちと教職員の関係……。学校をとりまく環境は、時代とともに大きく変化します。今号では、「それぞれの世代が感じる教育環境への思い」と題して、3人の中学校教職員経験者のみなさんに、エピソードを交えながら教育環境の変化について戸惑ったことや感じていることをお話しいただきました。

――学生の間ではICT教育について関心が高いのですが、みなさんの学校での状況はいかがですか。

タブレット端末などの導入は、市町村の予算によってかなり差があるように感じます（グラフ）。私の地区では、2016年の夏にタブレット端末が各学校に導入されました。授業での活用について、教員が研修を受けている段階で、まだ生徒は利用していません。台数が限られるので、3人で1台を使うなどグループ学習中心の使用を想定しています。教科によっても、活用状況はかなり違うのではないでしょうか。私の担当である美術の授業だと、美術史の単元で作品を見せるのにプロジェクターに投影するなど、授業の一部で利用するケースが多いです。一方で、授業をすべてデジタル教科書で進める数学の教員もいます。図形やグラフを大きく表示して解説したり、とりくむ演習問題だけを拡大して表示したりできるのが便利なようです。準備は大変そうですが、集中力が高まり、生徒の反応も良かったと聞きます。

私は社会科の担当ですが、歴史などの視点で見るかということが大事です。映像教材は関心を引くのには便利ですが、制作者の意図が強く反映されているものはあまり見せないようにしています。単元によって、利用するかしないかの判断が教員に求められると思います。

私は理科の担当ですが、デジタルカメラを授業で活用しています。例えば、植物の観察の単元は生徒にスケッチをさせていたので、記録にとても時間がかかっていたんです。今は生徒が撮った写真を活用することで、本来のねらいである植物の特徴をつかむことに、より多くの時間を使えるようになりました。

5教科は、特に点数学力をつけることが求められがちです。定められた内容を扱うだけで手いっぱいで、ICT機器を用いた新たなとりくみをする余裕がない現状もあります。機器が導入されても、なかなか活用しようとする教員が増えない背景には、そうした事情もあると思います。

プロジェクターを使うにも、職員室の戸棚から出して、教室でセッティングして、終わったら片付けて、と準備と片付けに結構時間がかかります。各教室にICT機器が備え付けられれば、より活用が進むかもしれません。

台数の関係で効果的に活用できないケースもあります。勤務校には、デジカメが2台しかありません。学級活動や行事の記録用に、多くの教員が自費で購入した私物を使っています。

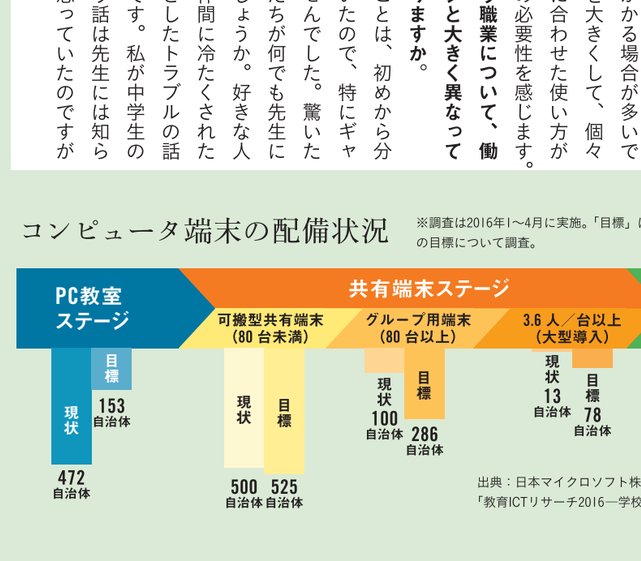
安く抑えるために、教材を自分で作る教員もいます。私も、何か使えるものはないかな、とホームセンターや100円ショップに通っています。

地図の等高線の授業では粘土でジオラマを自作しました。何万円もかかりましたが、市販の教材を買うよりは安くすみました。

公立学校では、原則、所定の手続きなしでは備品の購入はできません。ちょっとした消耗品でも、現金で近所のディスカウントストアなどで買うことはできません。また、毎年学校に割り当てられる予算も、備品費、修繕費などと用途が細かく決められ、発注から納品まで時間がかかる場合が多いです。学校裁量を大きくして、個々の学校の状況に合わせた使い方ができる仕組みの必要性を感じます。

――教員という職業について、働く前のイメージと大きく異なっていたことはありますか。

多忙なことは、初めから分かっていたので、特にギャップはありませんでした。驚いたのは、子どもたちが何でも先生に話す、ことでしょうか。好きな人の話や部活の仲間に冷たくされたなどのちょっとしたトラブルの話までいろいろです。私が中学生の時は、そういう話は先生には知られたくないと思っていたのですが……。



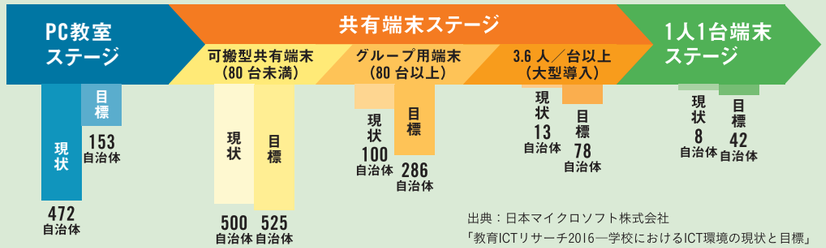
K先生
社会科教員（50代男性）
担当は社会科。現在は教務主任を務めているため、部活動にはあまり参加できていない。

N先生
美術科教員（30代女性）
担当は美術科。卓球部顧問として、未経験ながら生徒のサポートに熱心にとりくむ。

F先生
理科教員（40代男性）
担当は理科。小学校教諭の免許も所持しており、現在は小学校に勤務している。

コンピュータ端末の配備状況

※調査は2016年1～4月に実施。「目標」は調査時点から3年以内の目標について調査。



出典：日本マイクロソフト株式会社
「教育ICTリサーチ2016―学校におけるICT環境の現状と目標」

年齢が近い教員には子どもたちも話しやすいのでしょう。年が離れるとそうもいかずさびしいですよ(笑)。

昔は家に帰って「学校で怒られた」と親に言うと、「お前が悪いからだろ」と叱られるということが多かったです。今は、「なぜ、うちの子を怒るのか」と保護者が学校に来ることがあります。ずいぶんと変わりました。

たまたま出勤した土曜日に、保護者がいらっしゃって、5時間話を聞いたことがあります。保護者もきっと、子育てなど色々なことに悩んでいて、ただ話を聞いてもらいたいというのが大きいのだと思います。話し終わると、「お世話になりました」と帰っていきますから。ただ、多忙な学校現場で、教員だけでは対応に限界があるのも事実です。

社会的にも問題 教職員の多忙化

多忙化の一因として、中学校では部活動顧問の問題が、報道でもよく取り上げられます。

卓球部の顧問をしていますが、就任時、卓球経験はありませんでした。技術指導はつてを頼って外部コーチにお願いしていますが、朝7時前からの朝練、放課後の練習には顔を出します。生徒を下校させるとだいたい19時。それからが自分の仕事の時間です。

教員の得意分野を任されていると思われがちですが、現実には全員顧問制で未経験の運動部顧問を任されるケースも多いです(グラフ)。教員の負担軽減のため、「外部指導員」制度がスタートしますが、うまく学校とリンクさせて活用が進むまで、まだ時間がかかりそうです。

一方で、部活動には「生徒指導の一環」という側面もあります。学校が荒れている時に、部活動を通して生徒指導を行うという例もあります。完全に学校と切り離して外部にお願いすると、生徒の状況が見えなくなってしまうという懸念を持つ教員もいるのではないでしょうか。

確かに部活のほうが礼儀などについて生徒に厳しく言える側面はあるかもしれません。

授業以外の場でもコミュニケーションを

厳しく接するという点では、10年ほど前から、指導の仕方にかなり気を遣うようになりました。授業をサボって寝そべっている生徒の手を引いて教室に連れて行こうとしたら、「いてて。暴力だ」と言われたことがあります。

とにかく子どもたちとコミュニケーションを取って、人間関係を築くしかないと思います。私は、給食や清掃の時間の生徒たちとの関わりを大事にしています。授業以外の場での教員の振る舞いを子どもたちはよく見ています。例えば、教室の清掃をしっかり指導する教員には子どもたちもついていきます。教員も授業では気づけないクラスの異変に気づくこともできます。

新任の頃、「子どもと一緒に遊べ」とよく言われました。小学校なら「業間休み」や昼休みに校庭で一緒に遊んだり、中学なら部活で一緒にプレーしたり。

子どもたちにとって距離が近いかどうかは重要です。私は教務主任になって生徒と接する機会が少なくなったので信用がなくなってきています(笑)。

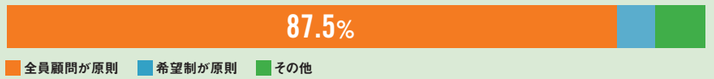
――教員になっても、心身的に病んでしまう人も多いと聞きます。

若い人が1年も経たずに辞めていったり、自死を選んだり。あってはならないことです。

中学校部活動の状況

部活動の休養日

部活動顧問の配置状況



外部人材の活用状況

出典：スポーツ庁「平成28年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査」

方にかなり気を遣うようになりました。授業をサボって寝そべっている生徒の手を引いて教室に連れて行こうとしたら、「いてて。暴力だ」と言われたことがあります。

とにかく子どもたちとコミュニケーションを取って、人間関係を築くしかないと思います。私は、給食や清掃の時間の生徒たちとの関わりを大事にしています。授業以外の場での教員の振る舞いを子どもたちはよく見ています。例えば、教室の清掃をしっかり指導する教員には子どもたちもついていきます。教員も授業では気づけないクラスの異変に気づくこともできます。

新任の頃、「子どもと一緒に遊べ」とよく言われました。小学校なら「業間休み」や昼休みに校庭で一緒に遊んだり、中学なら部活で一緒にプレーしたり。

子どもたちにとって距離が近いかどうかは重要です。私は教務主任になって生徒と接する機会が少なくなったので信用がなくなってきています(笑)。

――教員になっても、心身的に病んでしまう人も多いと聞きます。

若い人が1年も経たずに辞めていったり、自死を選んだり。あってはならないことです。

希望を持って教員になった人が、ずっと働き続けようと思える環境を私たちが作っていかなければならないと心から思います。

忙しくて自分の余裕がないと、新任教員の悩みを聞いたり、相談にのったりしてあげられないこともあります。

採用1年目、2年生を担任したのですが、両隣のクラス担任はベテラン教員でした。分からないことがあればすぐに聞けるし、学校全体で守ってくれていると感じ、安心して生徒と向き合うことができました。そういう配置での配慮も新任教員にはすごく心強いと思います。

――大学を卒業し、新採用で入ってくる先生方を見ていて、感じることはありますか?

「きまじめ」な人が増えた印象があります。なんでも言われた通りで、少し素直すぎるというか。情熱と気迫でぶつかってくる人が少なくなりました。今は、教員がオールマイティにそつなくこなせることを社会に求められるからかもしれません。

昔のほうが、教員が多様でした。科学者のように常に白衣を着ている人、休み時間に生徒と全力で運動する人、部活を頑張っている人。「これだけは誰にも負けない」ことが一つでもあるのは、教員にとって大事なことだと思います。

学生時代が忙しいのも一因かもしれません。教職課程を履修すると、授業がぎっしり入り、遊ぶ暇もサークルに入る暇もないほどなんです。授業の内容は身に付きますが、人間関係が固定化してしまいがちです。

学校には、色々なタイプの子どもたちが通って来ます。保護者も考え方も違えば、それぞれの家庭の状況も違います。教員はそうした多様な人たちと接していかなければならない職業です。学生時代のうちに、様々な人との接し方を学ぶ機会を自ら進んで持ってもらいたいですね。

学習指導要領ができるまで

Q 学習指導要領はなぜ必要なの？

簡潔に言えば、「教育の機会均等の確保と全国的な水準の維持向上のため」です。

憲法第26条は、国民の教育を受ける権利を保障しています。全国には小中学校だけでも約3万1千校ありますが、全国どこであっても一定の水準で教育がなされる必要があるわけです。その一方で、地域の特性や子どもたちの心身の発達段階などに応じて、個性的で特色ある教育へのニーズも高まっています。こうした観点から、学習指導要領は、学校が教育課程を編成する際の「最低限の基準」として定められているのです。

Q どんなことが定められているの？

学習指導要領は、「総則」と、各教科、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動といった「編成領域」で構成されています。

「総則」には、「教育課程編成の一般方針」、各教科などの「内容等の取扱いに関する共通的事項」、「授業時数等の取扱い」、「指導計画の作成等に当たって配慮すべき事項」といったものが示されています。

各教科や道徳といった「編成領域」では、「目標」及び「各学年の目標及び内容」が示されるとともに、「指導計画の作成と内容の取扱いについて配慮や留意すべき事項」が明らかにされています。

これらを踏まえたうえで、民間の教科書発行者によって「白表紙本」（検定前の教科書案）が作成され、検定に合格したものが教科書として学校で使用されることになります。

Q 誰がどんな風に決めているの？

改訂に関する議論は、大臣が中央教育審議会に「教育課程の基準の改善について」諮問することで始まります。

中央教育審議会には、30人ほどで構成される「総会」の他に、分野ごとに「分科会」などが設けられます。審議の多くは分科会によって行われ、その結果を総会でも一度審議したうえで、「答申」がなされ、文部科学大臣が公示します。

審議会のメンバーは、大学教授や教育長、現役の学校長などといった教育関係者だけでなく、地方自治体の首長や経済界からも選出しています。

Q 学習指導要領改訂のタイミングは？

学習指導要領は、1947年に文部省（現文部科学省）が「試案」として示しました。これが法的拘束力を持つようになったのは、最初の改訂が実施された58年からです。その後、68年、77年、89年、98年……と、約10年ごとに改訂されています。

なぜ10年ごとなのかと言えば、「社会が変容するサイクルに合わせて」ということだと思います。科学技術の高度化や国際化、情報化の進展など、社会状況に合わせて教育の内容を変えていくため、学習指導要領も見直されているというわけです。

Q 改訂から実施までどの程度かかる？

学習指導要領は改訂後、直ちに実施されるわけではありません。3年間の「移行期」が設けられています。例えば、2017年に公示された次期学習指導要領が、実際に実施されるのは、小学校が20年度、中学校が21年度からです。移行期がある理由は、教科書の「著作・編集」、「検定」、「採択」にそれぞれ1年程度かかるためです。

同時に文部科学省が並行して行うのが学校現場への「周知」です。まず文部科学省から各地の教育委員会の指導主事らに新たな学習指導要領の主旨を伝達します。次にその方たちが、自分たちの地元の学校現場で主旨を伝える、といったように周知させていきます。

Q 17年改訂のポイントと課題は？

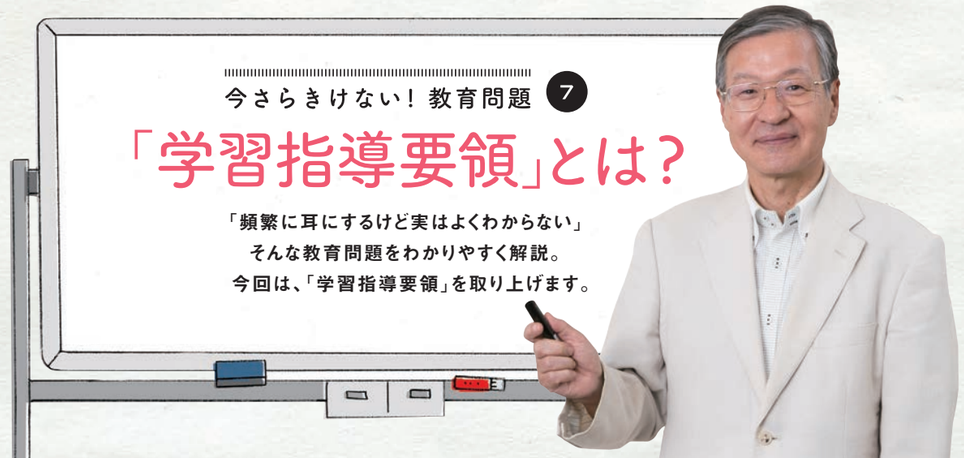
今回の改訂では、指導内容だけに留まらず、「指導方法」や子どもたちが身に付けるべき「資質・能力」にまで深く踏み込んでいます。これは、学習指導要領の「最小限基準性」から逸脱するおそれがあり、教員の「自律性」や「裁量性」を損ねると懸念する声もあります。元来、指導方法などについては、教育現場の判断において選択されるべきものだからです。

また、小学校5、6年における「外国語科」、3、4年における「外国語活動」の導入も大きなポイントではないでしょうか。他の学習内容の削減はされないため、年間総授業時数は、それぞれ35時間の増加となります。

日本の教員は、現在でも多忙を極めていますが、今回の改訂によって、指導業務の一層の増大が予想されています。これに対応する「教職員定数の増加」や「教員の研修環境の充実」など、どのように教育条件の整備を進めていけるかが、今後の課題ではないでしょうか。

樋口修資（ひぐち・のぶもと）
明星大学教育学部教授。1976年に文部省（現文部科学省）入省、大臣官房審議官、スポーツ・青少年局長などを歴任。2009年より明星大学教授、東京学芸大学客員教授。

イラスト：ワタナベケンイチ



学習指導要領の変遷

［主なねらいと特徴］

●1958～1960年改訂
教育課程の基準としての性格の明確化
・道徳の時間を新設　・系統的な学習を重視
・基礎学力の充実　・科学技術教育の向上

●1968～1970年改訂
教育内容の一層の向上
（「教育内容の現代化」）
・時代の進展に対応した教育内容の導入
・算数における集合の導入

●1977～1978年改訂
ゆとりのある充実した学校生活の実現
＝学習負担の適正化
・各教科等の目標
・内容を中核的事項にしぼる

●1989年改訂
社会の変化に自ら対応できる
心豊かな人間の育成
・生活科の新設、道徳教育の充実

●1998～1999年改訂
基礎・基本を確実に身に付けさせ、
自ら学び自ら考える力などの
「生きる力」の育成
・教育内容の厳選
・「総合的な学習の時間」の新設

●2008～2009年改訂
「生きる力」の育成、基礎的・基本的な
知識・技能の習得、思考力・判断力・
表現力等の育成のバランス
・授業時数の増加　・指導内容の充実
・小学校外国語活動の導入

あんしん むすぶ
教職員共済

教職員になったら 助け合いの輪 に加わろう

詳細はWEBから!
メルマガ登録も歓迎します

教職員共済 検索
http://www.kyousyokuin.or.jp/

モバイルはこちらから!

厚生労働省認可
教職員共済生活協同組合 〒162-8624 東京都新宿区山吹町10-1ラポール日教済
TEL.03-5228-0661(代)

12の保障(補償)

- 教職員賠償
- 個人賠償
- 火災
- 住宅災害
- 災害見舞
- 死亡
- 後遺障害
- 入院・休業
- 傷害
- 介護(傷害事故による)
- 遭難救助
- 退職 (1年以上契約すると誰でももらえる!)

※この共済は教職員共済の「総合共済」と損保ジャパン日本興亜の「傷害総合保険」「業務過誤賠償責任保険」とのセット商品で、月掛金900円のうち170円は損保ジャパン日本興亜の保険料です。

教職員になったら教職員共済へ!

＼ 教職員共済といえばやっぱり! ／

総合共済

[月掛金900円で12の保障(補償)]

支払事例

業務中の賠償事故 ― 教職員賠償

▼CASE 1

卒業アルバムの校正ミス!!

卒業アルバム作成時に1名の生徒の写真がもれていたが、契約者が校正の際に気付かず、後で修復が必要になった。

お支払金額 約16万円

※補償の有無・支払金額などは状況により異なります。

2015年度の支払実績(教職員賠償)
件数 105件
支払金額 約879万円

日常生活の賠償事故 ― 個人賠償

▼CASE 2

自転車で人をはねて重傷を負わせた!!

歩行者のそばを契約者の同居家族が自転車で追い抜こうとした際に、その歩行者が立ち止まり後方から衝突。激しく転倒させてしまった。

お支払金額 約315万円

※補償の有無・支払金額などは状況により異なります。

2015年度の支払実績(個人賠償)
件数 273件
支払金額 約7,007万円

承16-企-65(1703) SJNK16-19012 (2017.03.06)

子どもたちの新たな姿や行動に毎日出会える喜び

活躍する先輩たち VOL.7

九十九里町立豊海小学校教諭 野老優子さん

野老優子 さん（ところ・ゆうこ）

1988年千葉県生まれ。日本体育大学体育学部を卒業後、東金市立城西小学校に講師として赴任。2015年より九十九里町立豊海小学校勤務。同年、教員採用試験に合格し、16年4月より教諭として同校勤務に。取材時、小学校2年生の担任を務める。

中学生の時、毎朝、黒板いっぱいに書かれた担任からのメッセージを読むのが楽しみでした。前日の良かった点や改善点だったり、「いま夜中です。夜の学校は怖いです」など少しお茶目な内容だったり。クラスのやんちゃな子たちも、「また何か書いてあるよ」なんて言いながらも、心待ちにしているようでした。「教員」という職業を意識し始めたのは、毎日欠かさずメッセージを贈り続けてくれた先生への感謝と憧れからです。

体を動かすのが大好きで、「教員になるなら体育」と思っていました。兄が日本体育大学に進学したのを機に、私もめざしましたが、結果は不合格。保育を勉強する大学に進学したものの、「やっぱり何か違う」と。「試しにもう一度だけ」との思いで日体大に再挑戦し、合格しました。リラックスして受験できたのが良かったのだと思います。

大学では、中・高の体育の免許と養護教諭の免許を取得しました。教育実習は、保健体育で中学に3週間、養護教諭の実習で高校に2週間行きました。指導案を書くのに時間がかかり、いつも夜遅くまで指導教員が手伝ってくれたのを覚えています。

実習中は、生徒との距離のとり方に悩みました。生徒たちが親しみを込めて「ところちゃん」と呼んでくれたのですが、そのままの関係で授業をするのは良くないと思ったのです。「ところちゃん」は休み時間だけ、授業中は「野老先生」というメリハリをつけるよう意識しました。

卒業後、倍率が高い中学校体育科での採用は叶いませんでしたが、小学校に講師として赴任することになりました。経験するうちに、働きながら通信課程で小学校免許を取る道もあると知って、追加で取得しました。

ありがたいことに、講師として赴任した学校でも担任を任され、色々な経験を積むことができました。先輩たちから「低学年は宇宙人みたい」と聞かされた意味が今はよく分かります。図書室で地域の遺跡の本を読んだ2年生の子どもたちが、放課後、校庭のいたる所に穴を掘ってしまったことがありました。本気で宝物を発掘しようとしたみたいで（笑）。こんなふうに、毎日、予想外の発見があります。

授業をすると、子どもたちは自身を映す「鏡」のような存在だと感じます。こちらの準備が万端だと、「はい！」とたくさん手が挙がり、教室に活気が出ます。反対に、「もっと写真を用意すれば良かったかな」など、不安がある時は必ずと言っていいほど、反応がよくないのです。

教員は、想像以上に事務仕事が多いです。夜遅くまで仕事が終わらないこともあります。それでも、どんなに忙しくても、子どもたちの笑顔を見ると、元気が湧いてきます。毎年勤務校が変わった講師時代と違って、複数年にわたって、子どもたちの成長を見守っていけることが、今からとても楽しみです。

Interview

Mizuki Yamamoto

表紙の人インタビュー

「俳優」「モデル」として社会に貢献していたい

俳優・モデル 山本美月さん
明治大学
農学部生命科学科
2014年卒業

――モデルとして活躍する中、大学受験を選択しました。

友人も大学受験に向けて頑張っていましたし、家庭でも大学進学は当たり前のことでしたので自然な選択だったと思います。『Can Cam』の専属モデルに決まってから、週末は地元の福岡と東京を往復しながら、合間を縫って勉強をする生活が続きました。

当初は国公立大学志望でしたが国語が苦手なのと、5教科を勉強するには時間が足りないと思い、私立理系をめざしました。子どもの頃から田んぼや川で遊んだり、生き物を捕まえたりするのが好きでしたので、農学部生命科学科を選びました。

――芸能活動と大学生生活の両立は大変だったのでは？

今の仕事をしていなければ大学院で研究を続けていたと思えるぐらい好きな分野でしたし、学ぶ機会を大切にしていました。大学生ならではの経験や学科以外の人とも交流したくてサッカーのサークルにも入りました。残念ながら「留年したら一緒に卒業できなくなってしまう。みんなと共に」の思いで頑張れたのも大きいです。

――すべての経験が今につながっているのですね。

私、小学生の頃は刑事や警察官になりたかったんです。人気漫画〝こち亀〟の警察官「麗子」に憧れて。キャビンアテンダントが気になる時期もありました。きっと制服の職業への強い憧れがあったのでしょうね。今、俳優として様々な役を演じる時、いろんな制服を着ていて（笑）、夢が叶っているような不思議な感覚になることがあります。

大学で出会った恩師や友人から学んだことも、研究の中で学んだことも、すごく生きています。

ほとんど行けませんでしたが。

在学中に映画出演など、少しずつ仕事の比重が増えていく中、自分なりに精一杯やっていたつもりでしたが、中には「勉強が疎かになる」と、芸能活動に否定的な人もいて少し悩んだ時期もありました。

そんな時、研究室の教授が、「大学で学ぶことは、後でその経験をどう社会に貢献できるかということ。あなたはすでに俳優やモデルとして社会に貢献しているのです。しっかりやりなさい」と言ってくださって。この言葉は今でも私の心の支えになっています。

――そして、見事4年で卒業しました。

仕事との両立を決めた時、「必ず4年で卒業する」と母と約束したんです。芸能活動をしているからといって特別扱いはしてもらえませんから、出席重視の授業には苦労しました。それでも、友人が仕事のことを理解してくれて、出席できない講義のプリントを取っておいてくれたり、ノートを見せてくれたりしました。

Profile

1991年生まれ、福岡県出身。2009年から雑誌『CanCam』専属モデルとして活動。12年公開の映画『桐島、部活やめるってよ』でスクリーンデビュー。17年5月には主演映画『ピーチガール』が公開されるなど、映画、テレビドラマ、CMなど幅広く活躍している。

衣装協力：ワンピース／aise　TEL: 03-3408-9508

PICK UP INFORMATION

今号に登場した方々に関係した作品や編集部が注目する教育業界の活動を紹介します

BOOK

島田雅彦さんの新刊SF小説『カタストロフ・マニア』5/31（水）発売

『カタストロフ・マニア』
島田雅彦著／新潮社刊

今号の教育リレーコラムにご寄稿いただいた作家・島田雅彦さんの新刊が5月31日（水）に発売。2016年2月号から2017年1月号まで『新潮』に連載された小説「黎明期の母」が、『カタストロフ・マニア』というタイトルで単行本化されます。

2036年、治験のために入院していた病院で目覚めたシマダミロクは驚愕する。そこには、誰ひとりいなくなっていたのだから。ライフライン停止、感染症の蔓延、AIの専制が世界を脅かします。このまま黄昏れちゃっていいのか、人類――。ありうべき近未来を強靭な想像力が照らし出します。

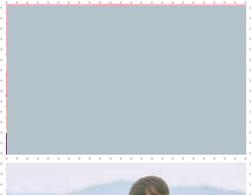
CINEMA

山本美月さん主演「ピーチガール」5/20（土）全国ロードショー

今号の「表紙の人」、山本美月さん主演の映画「ピーチガール」が、5月20日（土）に公開されます。

見た目は派手でも内面は超ピュアなヒロインを中心に、高校生4人が巻き起こす恋模様を、息をつかせぬ展開で描くラブストーリーです。

山本さん演じる「安達もも」は、中学の頃からの同級生に片思い中。ひょんなことから学年一のモテ王子に想いを寄せられるものの、小悪魔女子・沙絵の悪巧みで、事態はどんどんこじれてしまいます。二人の男性の間で揺れ動き、沙絵の罠により絶体絶命に陥ったもも。果たしてこの予測不能な恋の結末は……!?



「ピーチガール」
5月20日（土）全国ロードショー
出演：山本美月、伊野尾慧（Hey! Say! JUMP）、真剣佑、永野芽郁、本仮屋ユイカ　他
原作：上田美和「ピーチガール」（講談社）
脚本：山岡潤平　監督：神徳幸治

©2017「ピーチガール」製作委員会

PRESENT

みなさんの声をお寄せください

EDUPONTを読んだ感想や取り上げて欲しい内容など、みなさんのご意見をお聞かせください。編集部まで声をお寄せいただいた方の中から、表紙の人・山本美月さんのサイン色紙をプレゼントします。①名前、②大学名・所属、③年齢、④住所、⑤ご意見・ご感想を明記の上、件名を「EDUPONT7号プレゼント応募」として、以下の宛先までメールをお送りください。みなさんのご応募をお待ちしています。

応募先　メール／edupont@shakai-ouen.com

ACTIVITY

教職員の時間外労働規制を求める署名活動が「change.org」で展開中

政府が進めている「働き方改革」では、時間外労働の上限規制が設けられましたが、公立校の教員は「例外」とされ、規制の対象から外されました。こうした教職員の労働環境の改善に向けて活動しているのが教育学や教育社会学の研究者を中心とした「教職員の働き方改革推進プロジェクト」です。プロジェクトでは、オンライン署名サイト「change.org」で、教職員の時間外労働にも上限規制を求める署名活動を展開しています。

子どもたちの身近なおとなであり、学校現場を支える教職員の働き方を考えてみませんか。

署名サイト
change.org
https://goo.gl/ik6lrU

「教職員の働き方改革推進プロジェクト」Webサイト
https://学校の働き方改革.com/

EDU PONT vol.7 2017 spring

2017年5月発行
発行人 高比良美穂
編集長 若染雄太
発行所 一般社団法人社会応援ネットワーク
〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町1-12-11-3407
TEL:03-6861-3739 http://shakai-ouen.com

社会応援ネットワーク

一緒にEDU PONT（エデュポン）を作りませんか？

エデュポン EDUPONT 大学生特派員 大募集！

同じ夢をめざす仲間と今しかできない経験を！

「EDUPONTエデュポン」は、学校や地域という枠を超え、様々な形でこれからの「教育」を担っていく学生のみなさんを応援するコミュニティマガジンです。媒体の制作を通じて、全国の教育学部生の交流の場、学生が自由に「志」を抱き、行動に移すための有益な情報や活躍の場を提供することをめざしています。
「EDUPONTエデュポン」の制作に加わってくれる全国の大学生のみなさんの応募を心よりお待ちしております！

【応募条件】
教員志望もしくは教育に興味のある大学生

【活動内容】
①年2回程度の編集会議への出席※1
②編集会議で担当が決まった企画の企画立案、取材、原稿作成※2
※1：編集会議は東京で開催。往復交通費等は「社会応援ネットワーク」が負担いたします。※2：取材経費（交通費、宿泊費等）は「社会応援ネットワーク」が負担いたします。実働内容に合わせ、薄謝ですが謝礼もご用意しています。

【応募方法】
E-mailにて、件名に「エデュポン大学生特派員参加希望」、本文に①氏名 ②大学名 ③学部学科 ④学年 ⑤電話番号を記載の上、edupont@shakai-ouen.comまでご応募ください。
（なお、応募状況によってご希望に沿えない場合もあります。ご了承ください。）

Facebookもチェック

エデュポン 検索

製作協力
日本教職員組合

取材協力
愛媛大学
松山大学
千葉県教職員組合

協賛
教職員共済生活協同組合

EDU PONT
2017 spring vol.7

発行人
高比良美穂

編集長
若染雄太

取材・編集
ニューメディア研究所
シンキング

撮影
岡村隆広
武田憲久
長谷川博一

デザイン
細山田デザイン事務所

学生特派員
荒木真歩（早稲田大学文化構想学部）
伊東花乃（早稲田大学教育学部）
大友康平（群馬大学教育学部）
大西早紀（島根大学教育学部）
岡田龍（日本獣医生命科学大学応用生命科学部）
田村桃花（同志社女子大学現代社会学部）
田盛七海（安田女子大学教育学部）
原国光（広島修道大学人文学部）
松木泰裕（東京学芸大学大学院教育学研究科）
※特派員の所属は2017年3月時点のものです。